

に過ぎない状態となつた。水平社運動の全面を捉へた、かゝる養殖化の原因及闘争上に現れた主なる偏向について、次のことが指摘される。

(一) 水平社運動の養殖原因

(イ) 水平社が初期の時代にあらゆる層の部落民を廣泛に獲得することに成功したのは部落民大衆の切實な要求である身分的差別待遇撤廢の闘争を、勇敢にあらゆる場面において捲き起したからである。水平社運動は「一般民」に對する「部落民」の闘争として發展し擴大した。従つて部落内における階級對立と軋轢は「一般民」對「部落民」の身分的對立と軋轢の中に打消されてゐる。だが部落内における資本主義的階級關係の發展とプロレタリアートの闘争の利戟は部落内の労働者農民を階級的に成長せしめ、部落内の階級分化を著し

く促進した。このことは必然に水平社運動に反映した身分關係に對する階級關係の優位性とその比重の増大が、運動の上に明瞭な姿で現れて來た。即ち初期の時代には部落内の小ブルジョア層が主体を成してゐた水平社運動は、現在ではプロレタリアと貧農一殊に貧農が主体となつてゐる。従つて労働者及農民の政治的、經濟的要求が強く水平社の闘争の上に反映し、水平社は半勞、農組合的役割を果すべく餘儀なくされた。かくの如き傾向は、従つて漸次に小ブルジョア層を運動から落伍させ或は逃け出させる結果を齎したのである。

(ロ) 第二に水平社が一時的にもせよ變態的に持たされた半勞、農組合的機能は労働者農民の政治的、經濟的要求を充分に獲得することが出来ないため、部落の労働者農民は勞、農組合と水平社に二重に組織されたことで